総合心療センター　メンタルリハビリテーション部

部長　山内　学

当部門について

今年の総合心療センターのメンタルリハビリテーション部門は、4 月より 1 名のスタッフ減にて運営することになりました。経験あるスタッフの異動や退職にて十分補充がなされないことでの運営をすることになり、各部門への負担が増えてきています。

各部門では、コロナ禍における運営は継続しています。環境的整備を行いながらも、状況における判断や感染や濃厚接触者に発生に影響を敏感に受けています。心理における面接時間や全部門での環境調整の継続やプログラム内容を変更しての対応を継続しています。各部門が入院や外来部門へかかわるため最新チェックや対応をどこまでやればいいのかということを考えています。参加者への不安を当たえないことでの安全と安心の提供についても対応してもらっています。近森会のサポートや感染教育にて不安を増大せずに運営しています。

デイケア部門においては、復職や就労支援に取り組んでいます。グループ運営する際に、ディスカッション形式を取りにくい状況にあります。講義形が多い形でのプログラムに変更しています。そのため集団力動を用いることでの治療効果は少なくなってしまっています。個別面接や対応にてカバーするが脆弱性のサポートとしての不十分さはあります。外部との調整や交渉の大変さはありながらも、対象者を次のステップに進めるために経験あるスタッフ構成のため多岐における対応はできています。しかし、対象者の増につながる対応も今後とも求められています。

作業療法部門では、入院と外来患者への治療を継続的に行っています。外来患者の参加者が増えている現状と入院数による対者の増減の影響はかなり受けています。現在も、外来作業療法患者の次のステップへの意向の難しさや治療グループ導入が出来ていない状況が続いています。

心理部門は、デイケア部門でのスタッフ機能を十分に行えてきています。心理室での面接（カウンセリング）や心理検査は診療の大きなサポートや指針となっています。ストレスチェックやリエゾンチームでの役割もとれています。4 月からは心臓リハ受ける本人や家族へのサポートも取り組み始めています

今後も、急性期医療での回復度アップと在宅サポートや就労についての役割を中心に協働にて展開していく予定です。新しいプログラム運営や対応も徐々に行います